

～山田賞～



児島 亨

略 歴

昭和49年5月7日生
平成11年3月 岡山大学医学部卒業
平成22年3月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科修了
平成11年6月 心臓病センター榊原病院 外科・心臓血管外科 医員
平成13年11月 岡山済生会総合病院外科 医員
平成15年4月 津山中央病院心臓血管外科 医員
平成16年4月 広島市立広島市民病院勤務 外科医員
平成21年8月 岡山済生会総合病院外科 医師
現在に至る

研究論文内容要旨

末梢血中の浮遊癌細胞の存在は、その疾患の予後が短いことを示唆する。血中浮遊癌細胞を検出することはその予後予測因子として、また治療効果を判定する因子として、臨床的に意義があると考えられている。しかし、生存している浮遊癌細胞を特異的に検出する鋭敏なアッセイはいまだ確立されていない。ここで私たちは、GFP 発現テロメラーゼ特異的制限増殖型アデノウイルス製剤（OBP-401, TelomeScan）を使用して末梢血中のヒト生存浮遊癌細胞を可視化し検出するという、新たな検出法を報告する。この検出法でははじめに赤血球を溶血させ、沈殿した細胞成分に OBP-401 をくわえ、そして蛍光顕微鏡を用いて自動的に蛍光発現画像を取得する。生存している腫瘍細胞でのウイルス感染、複製により GFP 蛍光発現が起きるため、OBP-401 の感染は腫瘍細胞に特異的な標識となる。GFP を発現するウイルスを用いたこの方法は、血中浮遊癌細胞の非常に簡単で正確な検出法である。